

2025年3月25日（火）

老球の細道860号

第29回会津バスケットボールフェスティバル観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

NHKの番組で「お母さんといっしょ」というのがあるが、孫娘の話によると「お爺さんといっしょ」という番組もあるという。それにちなんで孫娘は私と一緒に「会津フェスティバル」の試合を観戦したいと言ってきた。まだ小学校4年生であるが、高校生の大会に興味を持ってくれたことに喜び、爺馬鹿であるが大会会場と一緒に連れて来た。

【「会津フェスティバル」というのは、県内外から強豪チームを招聘して、地元地区のチームと試合を行い、会津地区高校強化と親善を目的にした大会である】

孫娘を一人で行動させることに心配であったが、第1試合の郡山東高校対喜多方高校の試合を熱心に観戦していた。郡山東のNO4の「ドリブルヘッジ」のスキルにいたく感心して、試合が終わると持参したマイボールを片手に外のバスケットコートに場所を移動して一人で練習を始めた。たくさんの少年たちがコートで遊んでいたの、トラブルが起きないか時々体育館の窓からチェックしていた。ひたすら右ドリブルのレイアップを繰り返す。

1時間以上たっても体育館に戻って来ないので再度窓からチェックしたら、いつの間にかどこの誰だかわからない少年たちと2：2のゲームをやっていた。改めて子どもたちの順応性に感心した。家に帰って来て、事の成り行きを聞いたら、わが孫娘のほうからお兄ちゃんたちに声をかけて2：2のハーフコートゲームをやるようになったという。恐るべし。

話は変わって、大会の方であるが、昨年同様地元チームは男女ともに招待チームに対して歯が立たなかった。何と言ってもコンタクト、デフェンスプレッシャーに弱く、ターンオーバーが多過ぎた。特にパスミスが目立ち、オールコートでのボール運びもままならず、ハーフコートオフェンスが機能しないチームがたくさんあった。

どのようなカテゴリーでも見られる現象であるが、デフェンスのプレッシャーやコンタクトがない時は素晴らしいプレイができるのだが、相手のレベルが上がり、デフェンスのプレッシャーが厳しくなると、途端にプレイが消極的なり、ターンオーバーを繰り返し、練習してきたことが何もできないで終わってしまう。強くなるためには必ず経験しなければならない通過儀礼であり、試練である。あきらめてはいけない。

この壁を乗り越えるには、どのようなプレッシャーの中でもあきらめないで抵抗し続けることである。特にボール運びなどでは、チームとしてのコンセプトの下でやり続けているうちになんとかデフェンスを突破できるようになる。少しでも成功し、成長できれば、次に同じようなデフェンスに出会っても成長したレベルから戦うことができる。あきらめてしまうと次の試合もまたゼロからのスタートとなり、同じターンオーバーの繰り返しとなる。

最後になるが、今大会も地元の小、中学生、コーチ達の観戦が少なかった。県内外の素晴らしいチームがたくさん来ていて、小、中学生などには参考になること盛沢山。たくさんの試合を見る、強豪チームの試合、練習を見ることで子どもたちは見る、見る、上手くなる。